



# ケンコーコムのECビジネスにおける クラウド活用

～「クラウド導入」から「クラウド最適活用」へ～

2014年11月6日  
ケンコーコム株式会社  
佐甲 真吾

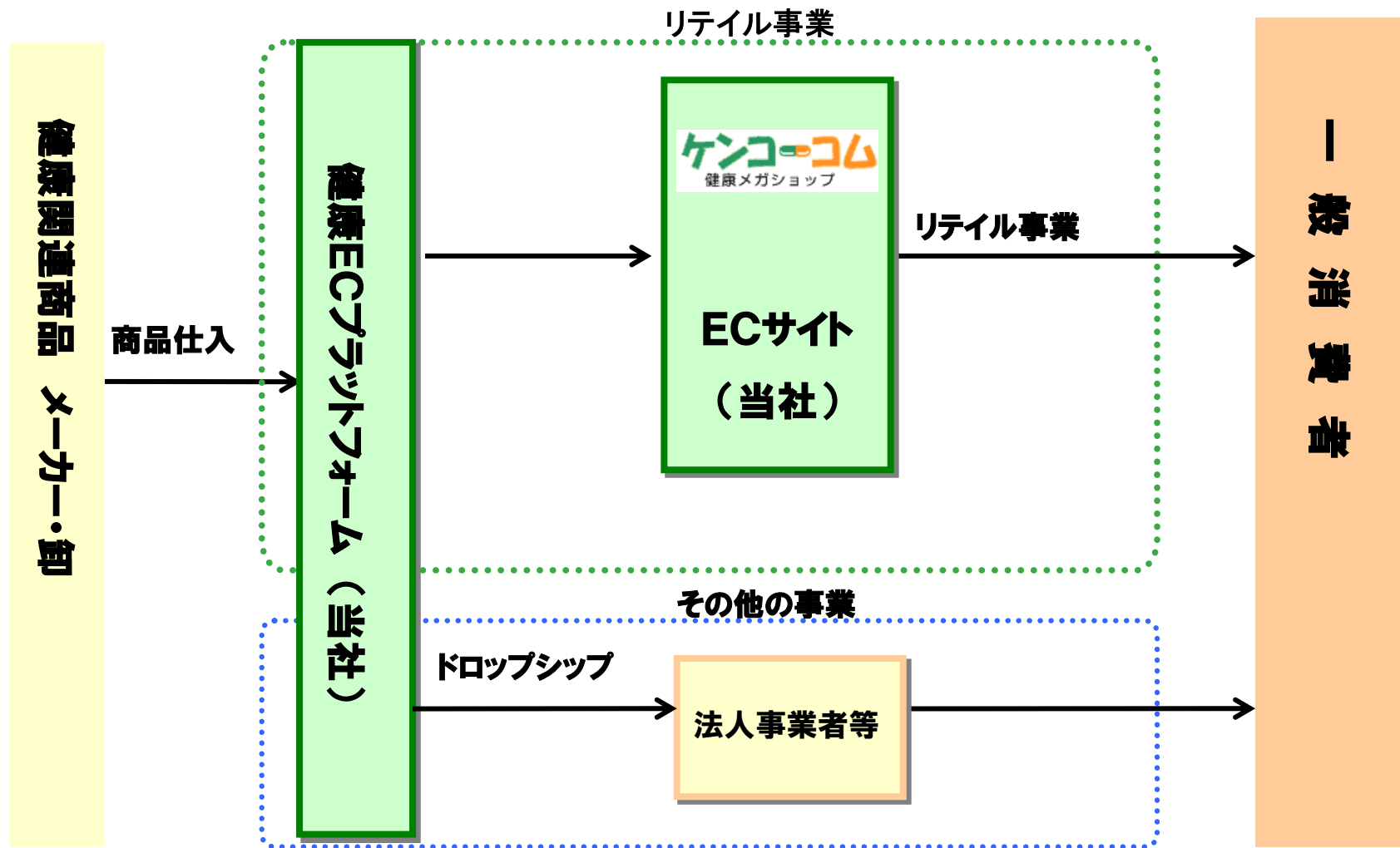
1. **ケンコーコムのご紹介**
2. **クラウド化の経緯**
3. **クラウド化のメリットと課題**
4. **今後のECビジネスの展望とITの課題**

# 1. ケンコーコムのご紹介

- 📍
**所在地**      **福岡(本店所在地) / 東京**
  
- 🌐
**URL**      **<http://www.kenko.com/>**
  
- 📋
**業務内容**      **健康関連商品のEコマース**
  
- 🎯
**経営理念**      **Eコマースを通じて、お客様の健康づくりに貢献する**
  
- 📅
**設立**      **1994年11月**
  
- 👥
**従業員数**      **312名(連結ベース)**
  
- 💰
**資本金**      **20億5,085万円(2013年12月末)**



当社は、主に健康食品や化粧品、医薬品等の健康関連商品のEコマースを一般消費者向けに行っている。



健康食品、医薬品、化粧品等の健康関連商品および日用品を、3つのウェブサイトを軸に販売している。

## ケンコーコム本店



## 楽天市場支店



## 楽天24



## モバイル支店

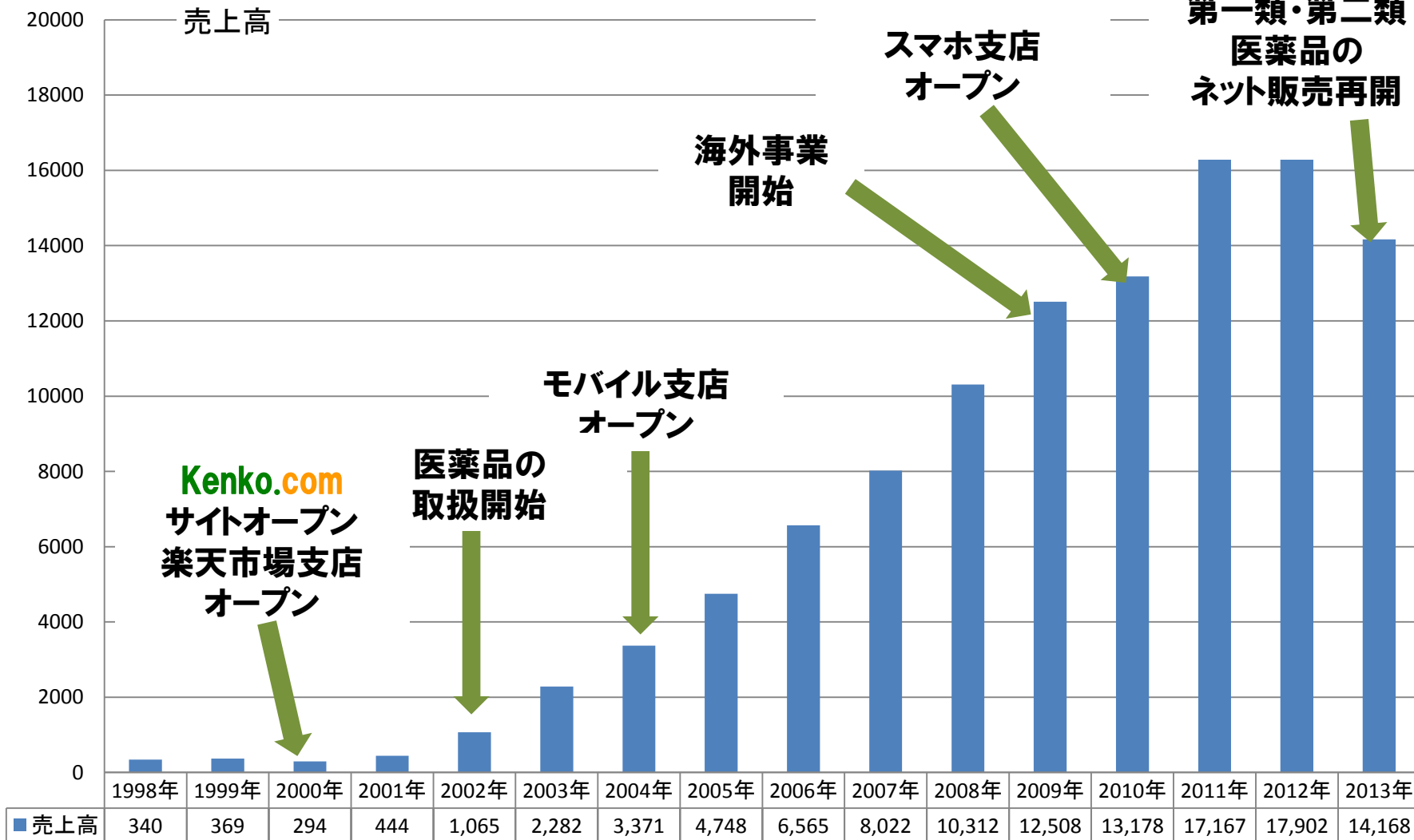


## スマートフォン支店

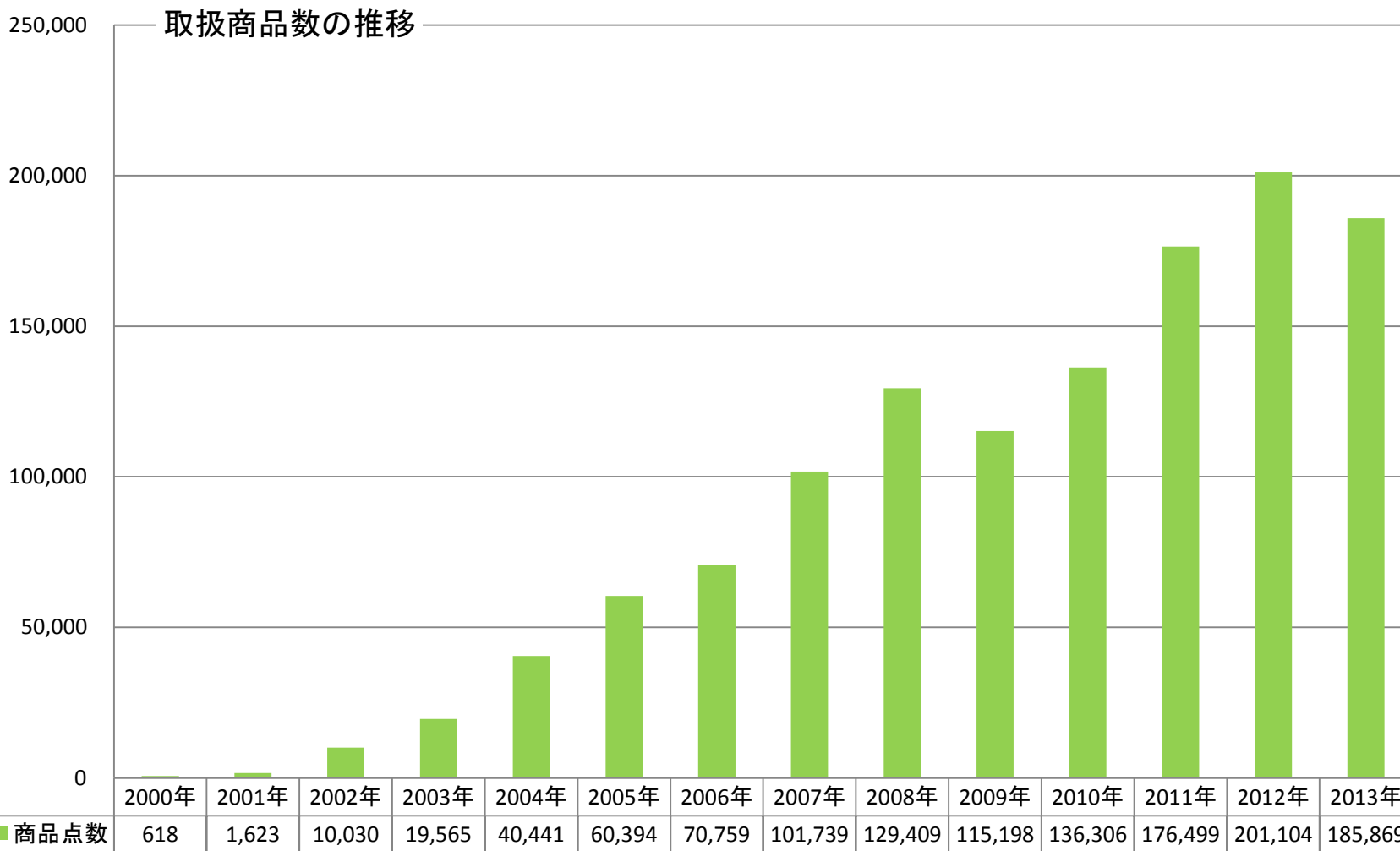


## Eコマース立ち上げ以来、順調に成長。2014年1月には楽天24事業を開始。 さらなる成長を睨む。

※2013年度より12月決算に変更したため、2013年度は9ヶ月決算



成長の原動力の一つとして豊富な品揃えが挙げられる。  
現在約18万点の商品を取り扱っている。





**2009年にシンガポールでの事業を開始。さらに中国・東南アジア各国に展開。**

- ・日本の安全かつ高品質な健康関連商品を、海外のお客様へ向けて販売
- ・日本と香港を出荷拠点として、東南アジア各国に個人輸入形式ビジネスを展開



2009年10月  
シンガポール子会社設立。  
「ケンコーコムSG」サイトオープン

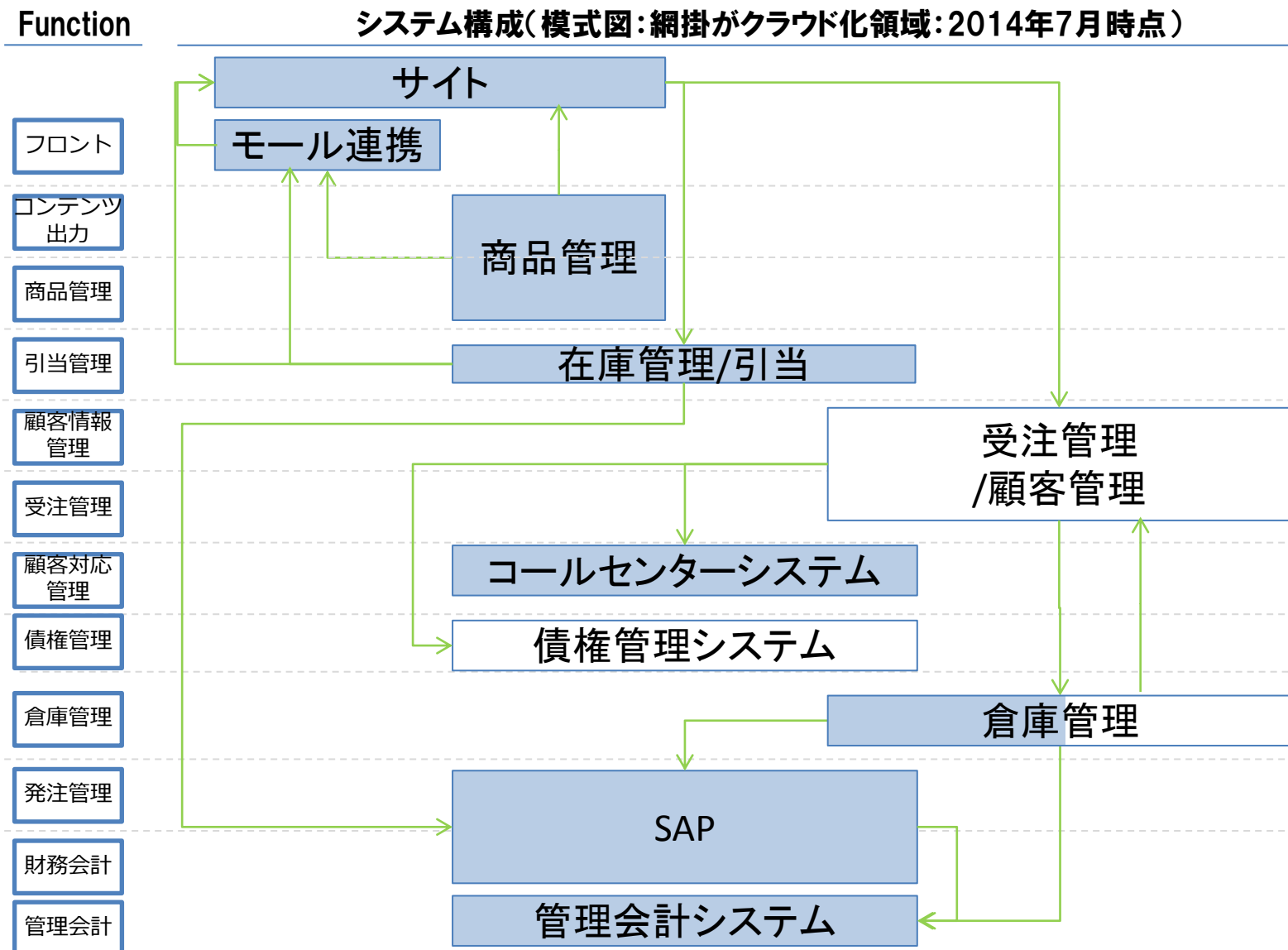
2013年7月  
中国最大のB2Cインターネットモール  
「天猫 (Tmall) 」に  
「kenko 海外旗舰店」出店

2013年9月  
シンガポールECモール「Qoo10」に  
「Kenko.com@Qoo10」出店

2013年12月  
シンガポール「楽天アジア」に  
「Kenkocom @ Rakuten Singapore 」出店

2014年8月  
香港出荷センター稼動開始。  
「ケンコーコムGlobal」にサイトリニューアル

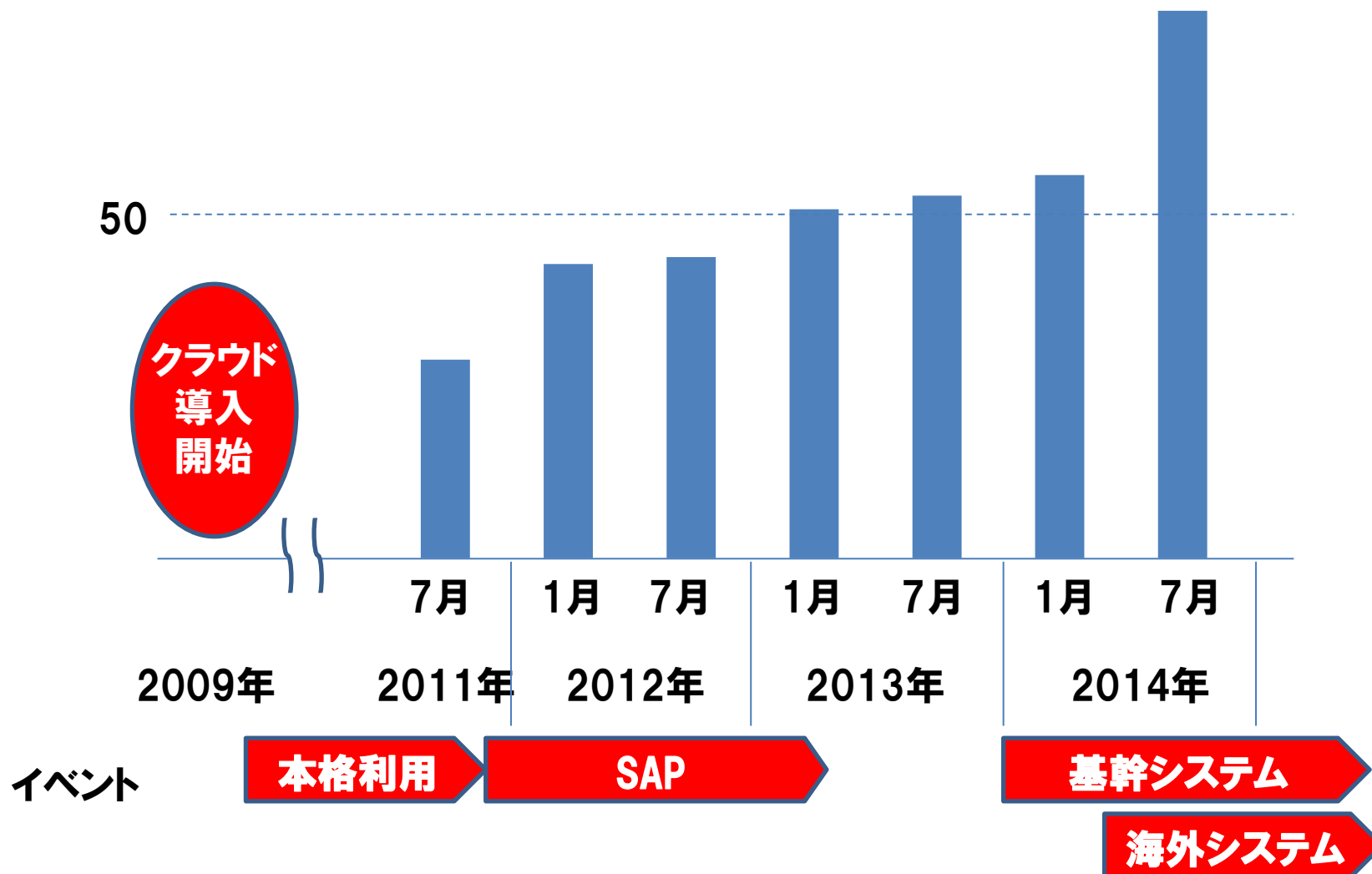
受注から出荷までのシステムが緊密に連携をとっている。



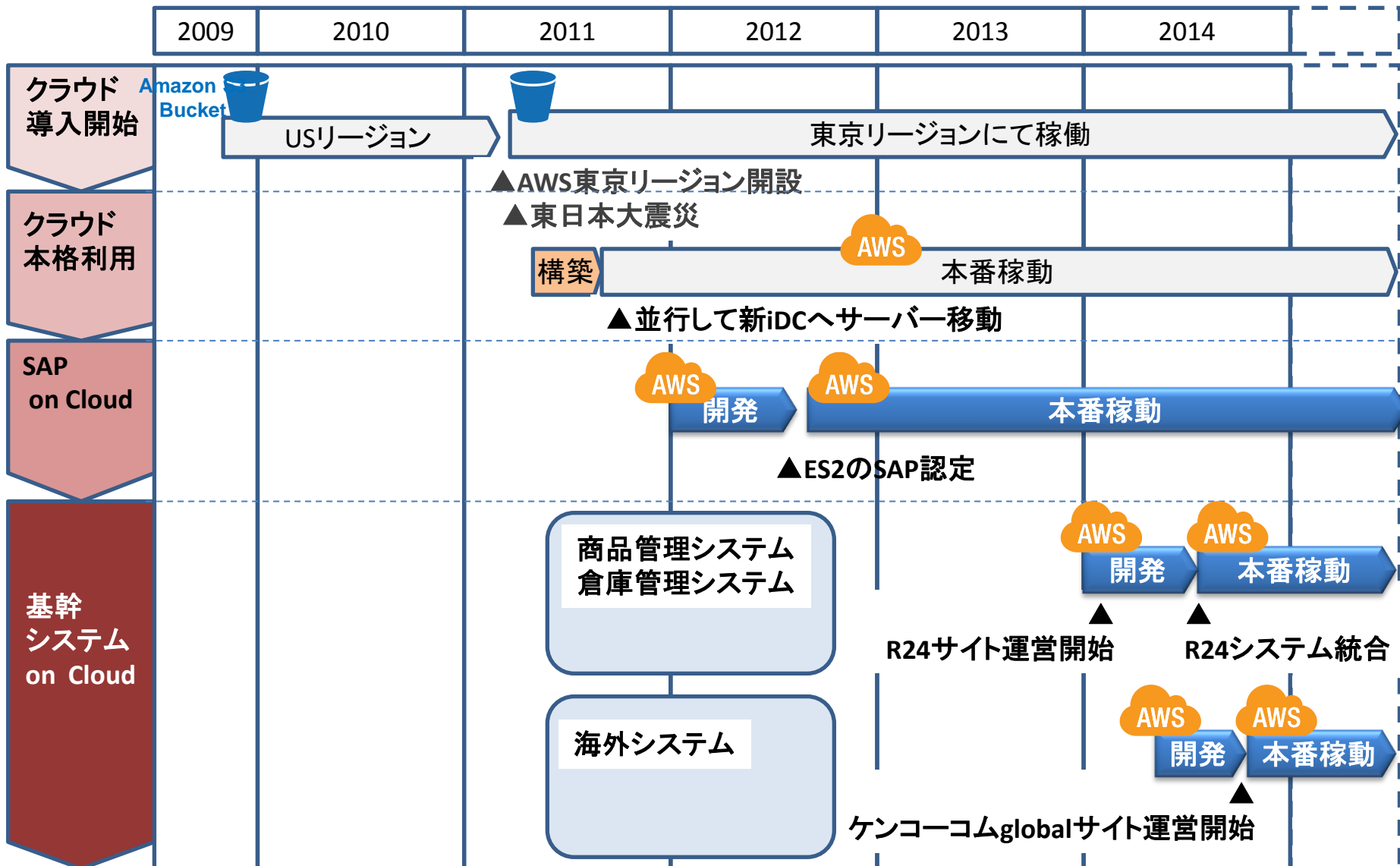
## 2. クラウド化の経緯

ITインフラ面でのクラウドの活用がケンコーコムの実業展開・拡張を支えている。

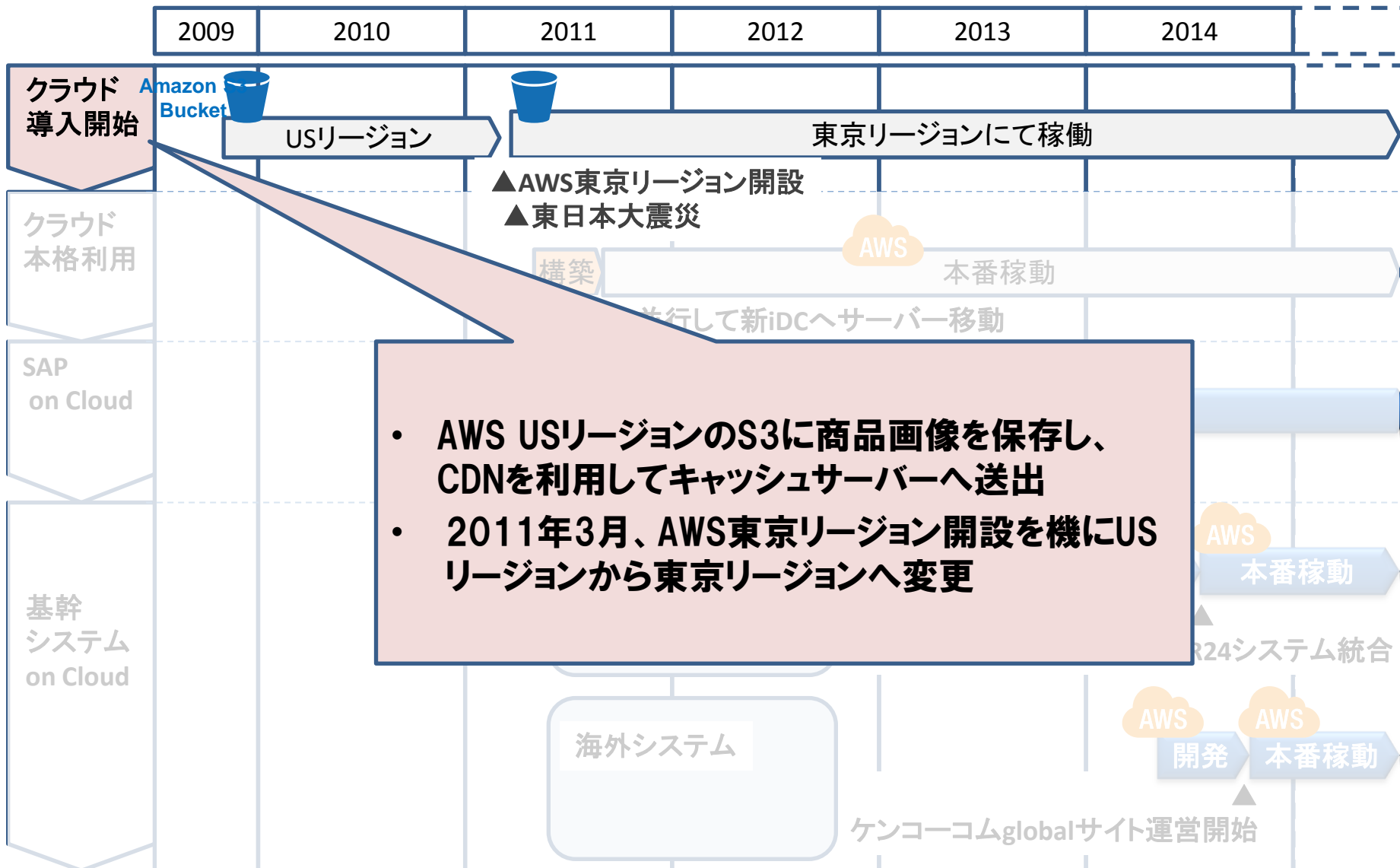
クラウドサーバ数推移



## SAP導入後、基幹システムを切り替える際のインフラとしてクラウドを採用。

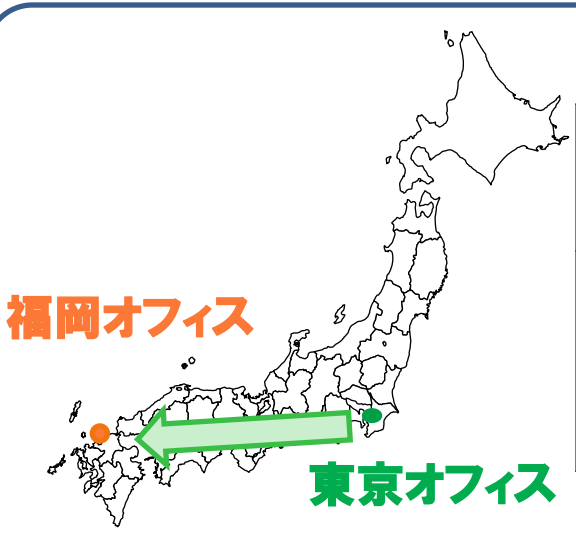


## 膨大な商品画像の送出国に、安価なS3を活用。



東日本大震災を機に、安定的事業運営体制を構築するため、2011年5月より本社機能の一部を福岡オフィスへ移転。その際にクラウド化を進める。

- クラウド導入開始
- クラウド本格利用
- SAP on Cloud
- 基幹システム on Cloud



施策	状況と施策の進捗			
	2011年3月	6月	9月	10月
震災の影響	本社機能一部移転	→ 完了		9月末完了
	クラウド化	→ 完了		10月末完了
	物流拠点の移転	→ 完了	5月上旬完了	

### クラウド移行前

データセンター利用料  
セキュリティ監視  
保守管理費  
ハードウェア刷新費など  
9百万円/月

**削減額**  
約6百万円/月

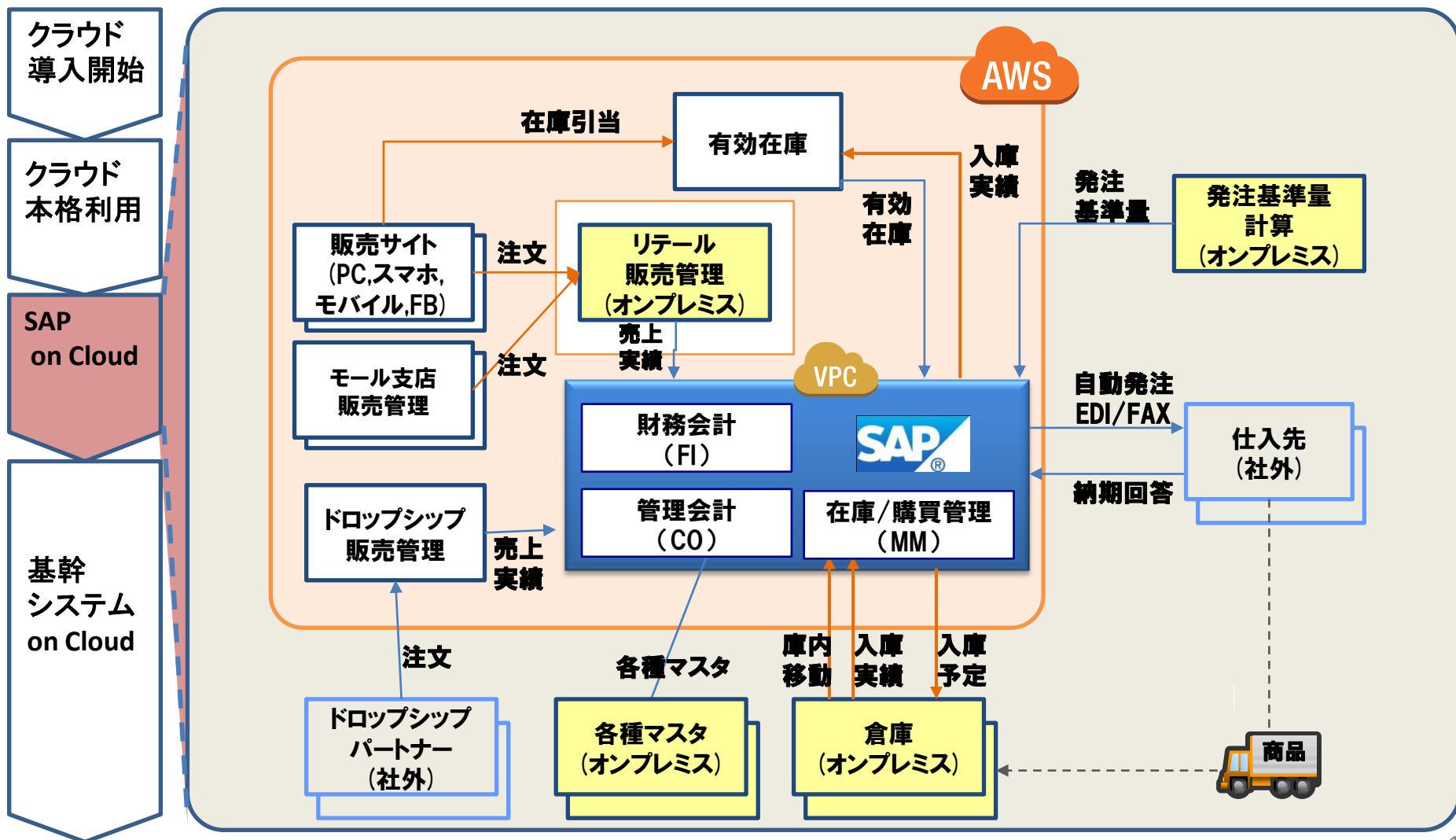
### クラウド移行後

クラウド費用  
3百万円/月

50台以上のサーバーを  
統廃合しAWSへ移行

# クラウド化経緯 (3-1) - SAP on Cloud (概念図)

商品数、顧客数が急激に増加する中、スピード重視での導入を図る。  
AWSとオンプレミス間で多数のインターフェースを持つ構成とした。





SAP導入期間の長期化は許されない状況で、短期間で稼働させるためのインフラとしてAWSを選択するのは自然な流れだった。

クラウド  
導入開始

クラウド  
本格利用

SAP  
on Cloud

基幹  
システム  
on Cloud

## ■活用メリットの実感

- 2011年にオンプレミス(自社運用)からクラウドへの移行を行い、**既に活用メリットを実感**していた。
- AWS選定にあたり、他企業が提供するクラウドの比較はしなかった。

## ■将来の二重投資の回避

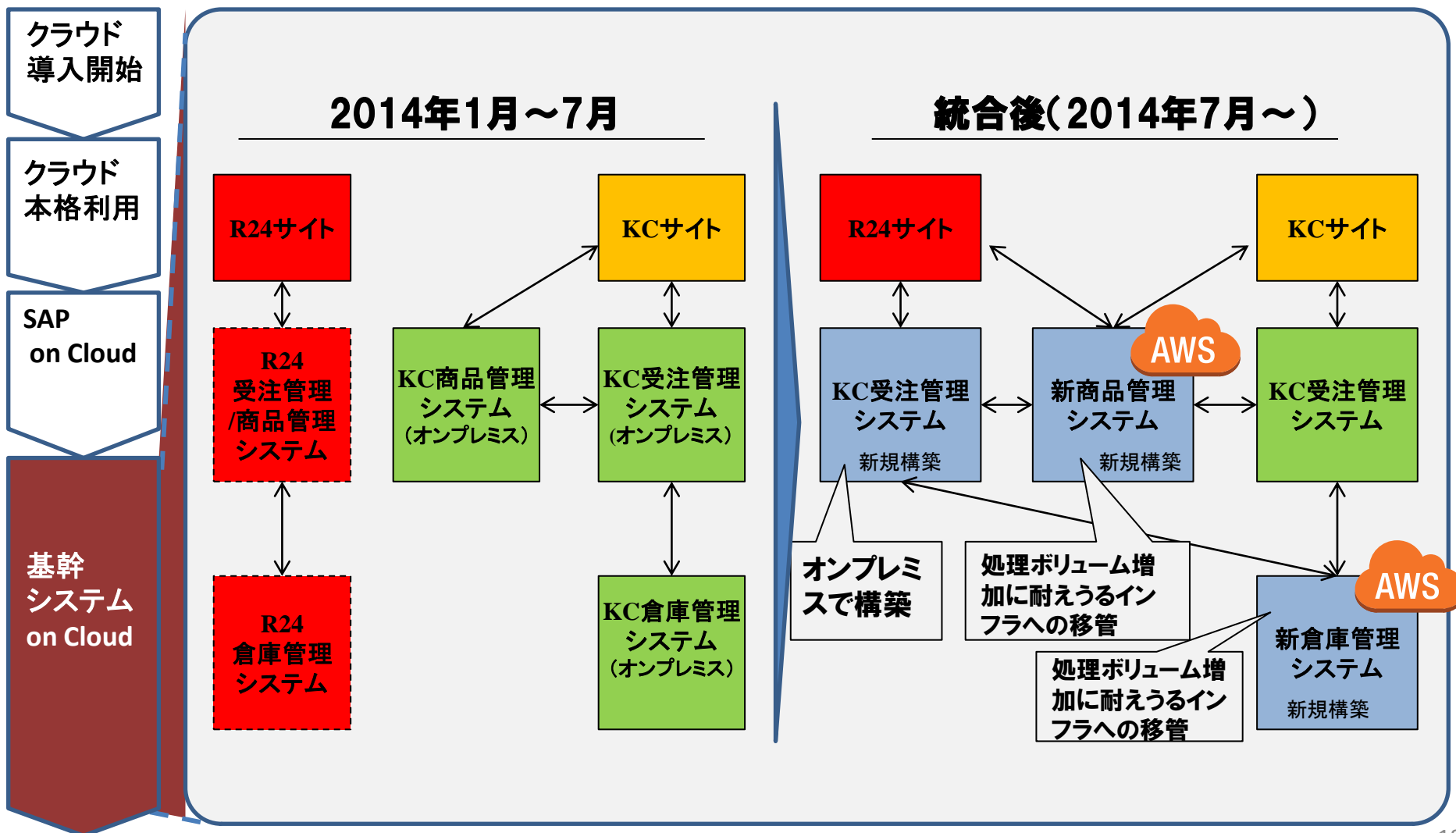
- 当時、AWSはまだSAP ERPの認証プラットフォームではなかったため、導入には慎重な判断が必要だった。
- 長期的視点に立って考え、今後クラウドが当たり前のインフラになることは必至との判断から、**将来の二重投資を回避**するために稼働時からAWS利用を決定

## ■要件定義・調達の早期完了

- ハードウェアなど、**リードタイムの長い調達**は**ボトルネック**要素と思われた
- **最初にプロトタイプ環境**としてAWSを利用した結果、すばやく要件定義を実施でき、**短納期で稼働させる自信**につながった

# クラウド化経緯 (4-1) - 基幹システム on Cloud - 概念図

運用効率向上のため、並列で運用されていたシステムを統合。R24サイトで受けた受注を、KCサイトと同一の倉庫から出荷できるようにするための取り組みを推進。



業務効率・システム運用効率を早期に高めることが求められる中、既に導入実績もあり、ノウハウも蓄積してきたAWSを選択することは自然な流れだった。

クラウド  
導入開始

クラウド  
本格利用

SAP  
on Cloud

基幹  
システム  
on Cloud

## ■蓄積したノウハウの活用

- SAP導入後、運用ノウハウも蓄積してきた。SAPとの連携も必要なシステムをAWSで構築することは自然な流れ。
- AWS選定にあたり、他企業が提供するクラウドの比較はしなかった。

## ■パフォーマンス懸念の解消

- 倉庫管理システムに関しては、パフォーマンスが懸念された。
- 一旦AWSで構築・テストを行い、パフォーマンステストの結果を見てオンプレでも対応できるよう両にらみで推進。

## ■構築後の柔軟性の確保

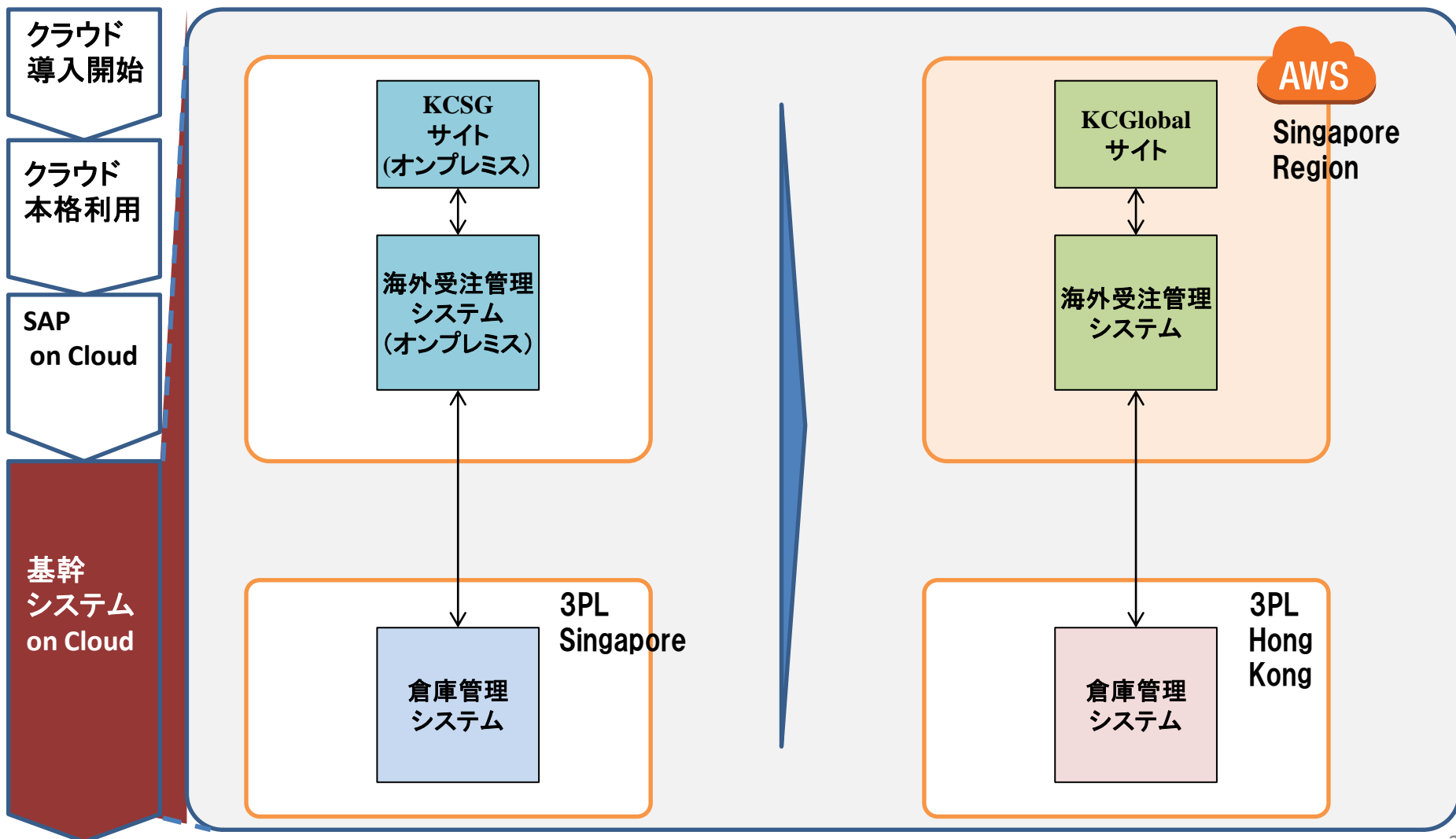
- 今後のビジネス環境の動向に応じて、処理件数が増大したとしても柔軟に対応できるインフラの構築が求められていた。
- 設計時点での処理ボリュームの算出が困難な状況でもあった。

## ■要件定義・調達の早期完了

- ハードウェアなど、リードタイムの長い調達はボトルネック要素と思われた
- 最初にプロトタイプ環境としてAWSを利用した結果、すばやく要件定義を実施でき、短納期で稼働させる自信につながった

# クラウド化経緯 (5) - 海外システム on Cloud

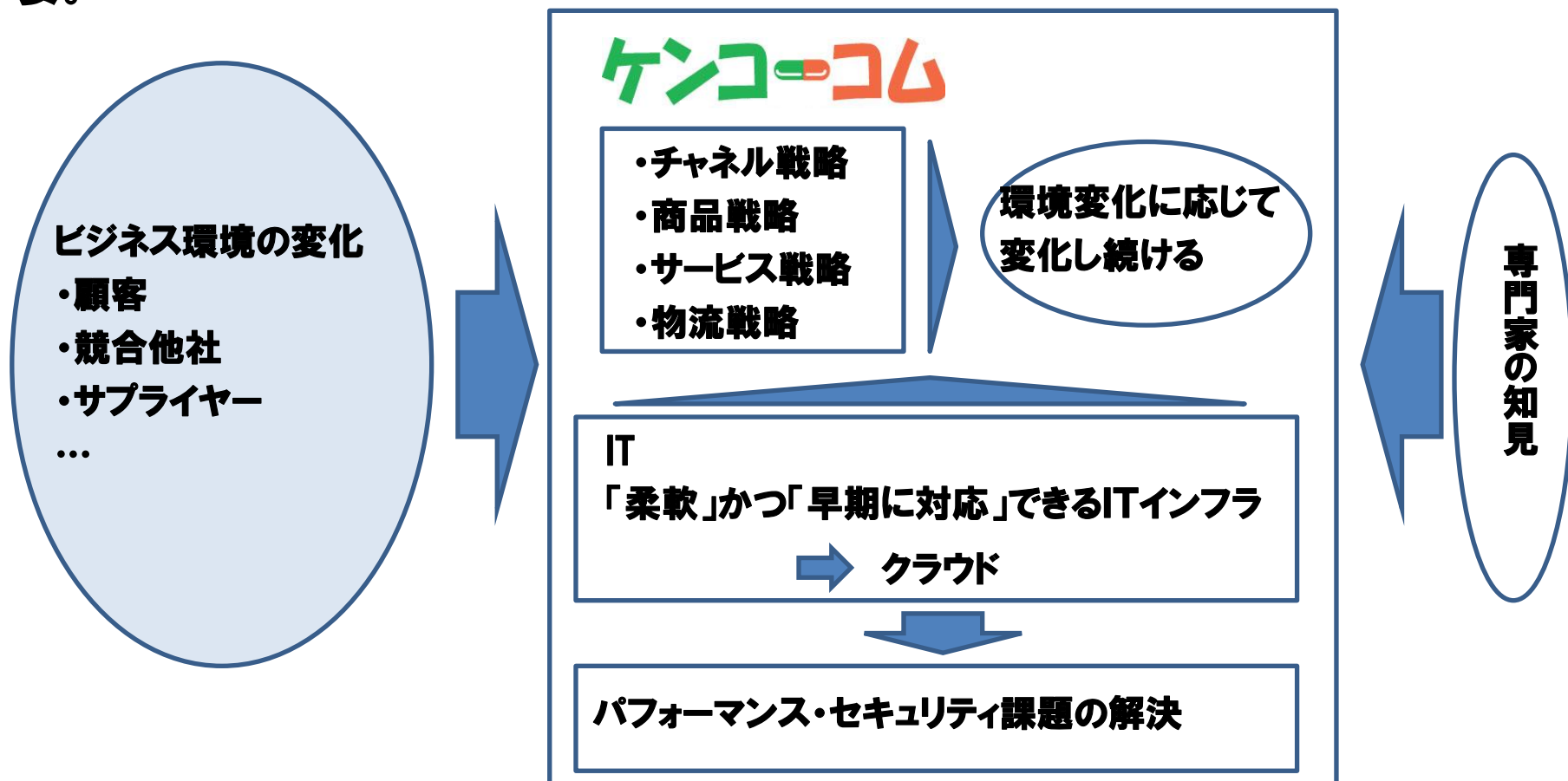
シンガポールにあったシステムをクラウド化。香港倉庫の早期稼動を可能とした。



### 3. クラウド化のメリットと課題

ビジネス環境の変化に迅速に対応することが求められる当社にとって、クラウド化のメリットは「柔軟性」と「迅速性」に尽きる。一方でパフォーマンスとセキュリティの課題をクリアしておくことが求められる。

クラウドを最適活用する上では、専門家の知見を得られるようにしておくことが重要。



クラウドの持つ「柔軟性」と「迅速性」が、当社のシステム導入にあたっての課題を解決した。

## システム構築までのスピードを上げる

- ・ アーキテクチャ設計における、サーバースペック見積りなどの設計工数を考慮しなくてよい
- ・ ハードウェア調達リードタイムを考慮しなくてよい

## プロジェクトリスクを下げる

- ・ プロトタイプによって、要件定義・技術検証を早期に開始でき、リスクを早期につぶすことができる
- ・ 余裕を持って必要以上にスペックの高いマシンを選定しまうことを回避できる

## 処理ボリュームの変動に即座に対応する

- ・ テストやデータ移行など、サーバー利用の要求が急激に高まるときでも、複製した環境を並行で稼働させることができる
- ・ 一時的にアクセスが集中するような事態が予測される場合でも、サーバーのスペックを短時間で上げるができる

## 場所を選ばずに使う

- ・ 海外でのサービス展開を検討する際に、土地勘のない国・地域でのデータセンター探しなどを気にせずに検討できる

クラウドベースのシステムを構築する上で、パフォーマンスとセキュリティの検証は欠かせない。

## パフォーマンス

- ・ 倉庫システム導入時に、それまで倉庫にあったサーバーがクラウド化することによるパフォーマンスの懸念があった。  
→パフォーマンステストを実施
  - ・ 擬似的に複数のPCで数秒ごとに入庫をつけている状況を再現
  - ・ その状態での在庫引当処理などを実施して挙動を確認

## セキュリティ

- ・ IDCにサーバを置く場合と考え方は変わらない方針。  
→クラウドと事務所内サーバ間をVPN接続する構成のネットワークを構築
  - ・ クラウドの接続はオフィスからのみに限定する



# クラウドとオンプレミスとのコスト対比

2014年9月現在、当社内の試算では、すべてオンプレミスで構築した場合の約半分(55%)で運用できている。

## パラメータ

オンプレミス必要台数

クラウド台数

必要となる予備機の台数

サーバ購入・構築費用

DBサーバ必要台数

DBサーバ導入初期費用

DC費用

オンプレミス必要台数

1台あたりのラック単価

保守監視体制(24時間)

運用人月単価

人数

オンプレミスの場合  
の月額費用換算

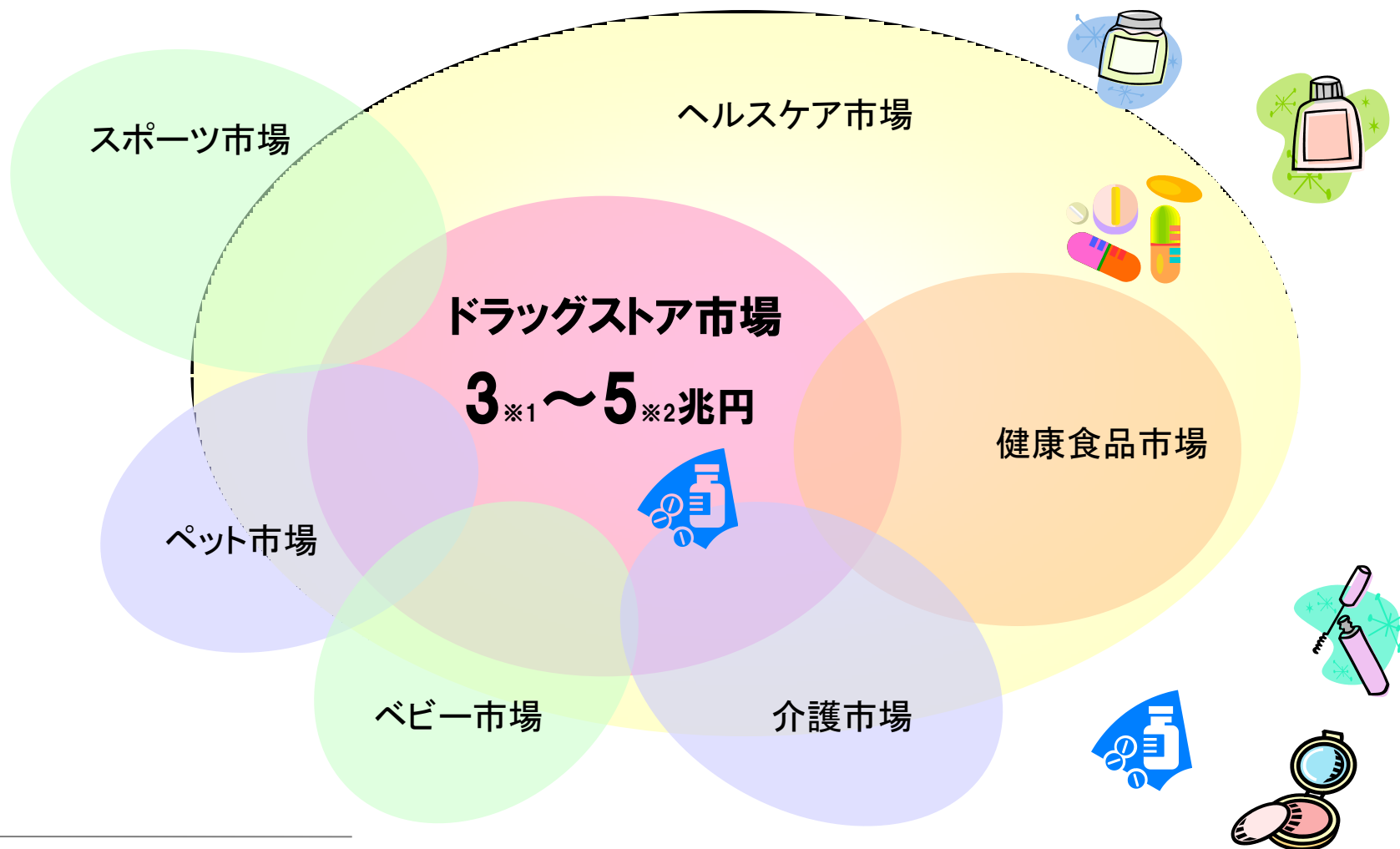
クラウド月額費用

9 : 5

## 4. 今後のECビジネスの展望とITの課題

# 今後の展開 - 国内の健康関連マーケット

ドラッグストア業界は、高齢化や健康ブームを背景に拡大傾向にあり、さらに健康食品から日用品などを幅広く扱う大規模事業会社が増加しつつある。

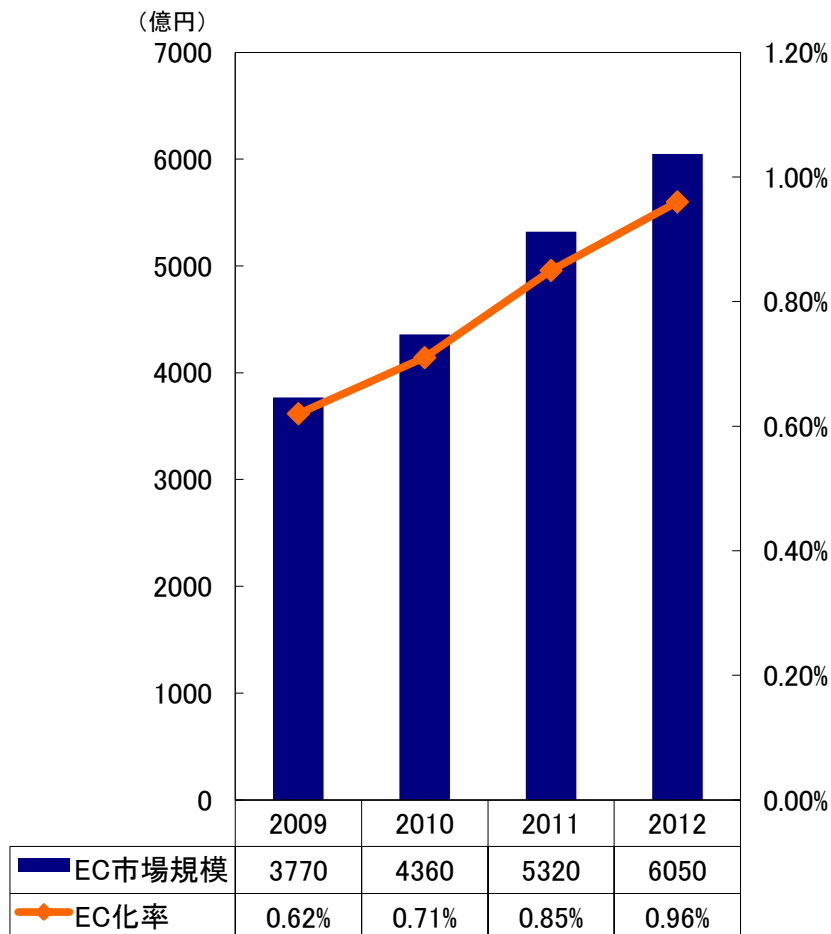


※1 「平成19年度商業統計2次加工業態別(小売業)データ」経済産業省

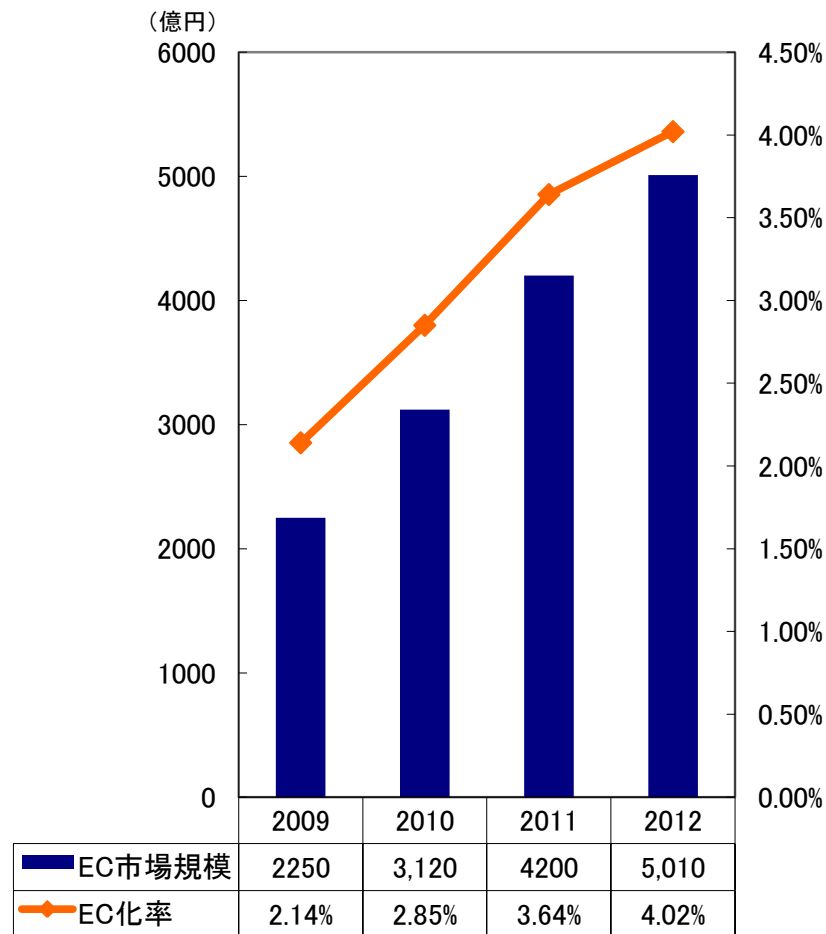
※2 「ドラッグストアの現在と成長予測」日本チェーンドラッグストア協会 2009/4/3

食品小売業、および医薬品化粧品小売業いずれも顕著な伸びをしめしている。

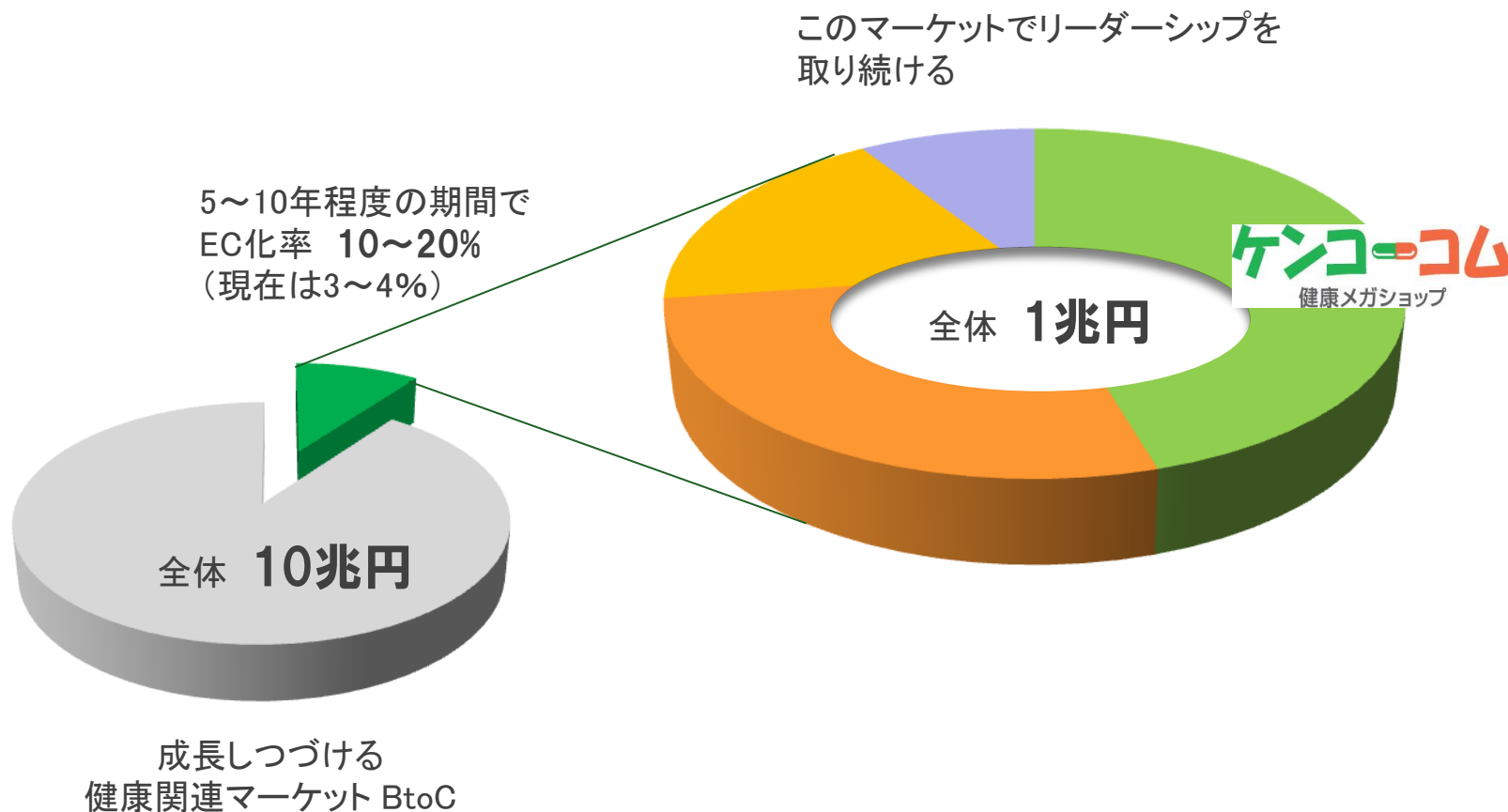
食品小売業のECマーケットの推移



医薬品化粧品小売業ECマーケットの推移



国内における健康EC市場は今後も成長し有望である。  
この市場でリーダーシップを取り続けることを目指す。



**クラウドは、特に成長途上の企業・事業を支えるITインフラを構築する際の「最初に考える選択肢」。**

**ただし、クラウド化自体が目的ではない。ビジネス戦略の要請、それを実現するためのビジネスモデルやビジネスプロセスにあったITアーキテクチャーを構築するための有力な選択肢の一つとして考えるべき。**

**クラウドは一度導入したらそれで終わりということではない。今後クラウド化の領域が増えることが予想される中、ITを見る立場のものには、個々のサーバーレベルでの運用状況を把握し、常に最適活用を模索し続けることがより一層強く求められる。**



なお、本資料に記載のデータについて、特に出典の記載のないものについては当社集計数値によるものです。